

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.6 2011年3月31日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

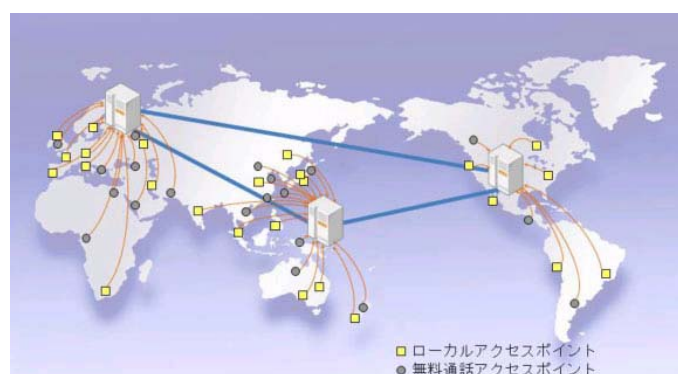
製品・サービス動向-国内

プレミアコンファレンシング、SaaS 形態の国際電話会議サービスを開始

米 PGI グループ プレミアコンファレンシング株式会社(東京都中央区)は、世界 233 カ国をカバーする国際電話会議サービス「GlobalMeet 電話会議サービス」を SaaS 形態で提供開始することを発表。(3月3日)

GlobalMeet 電話会議サービスは、国内利用を中心とした従来の「ReadyConference ノンオペレータ電話会議サービス」に加え、新たに提供するサービス。仮定の電話会議室(電話回線上で行われる会議室という意味)に、最寄りのローカルアクセス番号に電話し、パスコードを入力することでサービスが利用できる。初期費用なしで、利用分数に応じた従量課金制で提供する。会議は、24時間365日、オペレーターなしで開催できる。定価は、1分17円より(サービスにアクセスする国により、5つの帯域で金額が異なる)。

典型的な国際電話会議サービスでは、電話会議システム(多地点を提供する機能)は、世界のどこか一ヶ所に集約されていたため、音質の低下や分当たりの価格が非常に高くなるなどの難点があった。



イメージ図(プレミアコンファレンシング 資料)

そこで、今回プレミアコンファレンシングが開始するサービスでは、電話会議システムを世界の3ヶ所以上に分散した上で、相互にバックボーン接続を行っているという。これにより、世界中にあるアクセスポイント(電話会議に参加するために電話する番号)は、一番近いシステムに接続されるため、国際電話会議にありえる音質の低下を極力おさえつつ、価格もリーズナブルに設定できるようになったという。

そのため、ローカルアクセスポイントは、世界主要45カ国、66都市に用意。また、国際フリーダイヤルアクセス番号を59カ国、さらには、ダイヤルアウトアクセスで、世界233カ国をカバーしている。一方、日本国内のローカルアクセスポイントは、東京、大阪、札幌、仙台、千葉、立川、横浜、浦和、静岡、富山、名古屋、広島、博多の13都市。

今回開始する GlobalMeet 電話会議サービスは、「Cisco WebEx」、「Adobe Connect」などの Web 会議サービスとも連携できる。これによって、Web 会議に PC から参加すると、電話会議情報(アクセスポイントの電話番号、パスコード)を表示したり、会議室から自分の電話機にダイヤルアウトをさせたり、あるいは、参加者リストを表示してだれが参加もしくは話をしているかなどがわかる、といったことができるようになる。加えて、参加者のミュートなど音声コントロールも行える。

同社では、今後 GlobalMeet 電話会議サービスさらに進化させ、Web 上で電話会議をスケジュール、開始、コントロールできる「GlobalMeet ミーティングポータル」を提供するなど、サービスの充実を図っていくという。

また、今回のサービス提供開始とともに、帯域1、帯域2のローカルアクセス(20カ国)の中から、3カ国を1分9円(3カ国にかぎる。ただし1年間利用可能)の会議利用料金で利用できる「ジャンプスタートキャンペーン」を実施している。詳細は、同社に確認要。

JB アドバンスド・テクノロジー、タッチパネル一体型オールインワンシステム発表

JB アドバンスド・テクノロジー株式会社(神奈川県横浜市)は、情報共有や会議コストを削減するユーザ支援ソリューション「Meeting Canvas(ミーティングキャンバス)」を発表した。(3月8日)

Meeting Canvas は、タッチパネル一体型オールインワンシステムで、画面と音声、タッチパネルによる書き込み情報の共有により遠隔地とのコミュニケーションを実現する。ユーザが電源を入れるだけで複雑な配線なしに、タッチパネルの操作で会議を始められ、また、キャンバスに描き込むように自由に描き込むことができる点が特長。

レノボ社のパソコン「ThinkCentre M90z」をベースに製品化されており、OS には、Windows 7(32bit 版)を搭載し、遠隔会議ソフトウェアライセンス(1)がインストールされている。本体には、Web カメラが、内蔵されているとともに、外付けの専用マイクスピーカー(クリアワン社製)を提供する。

4 地点までの同時接続(最大構成 9 拠点)が可能で、音声ビットレートは、32kbps、通信帯域は、256kbps 以上となっている。セキュリティ通信には、HTTPS を使用。

本体の大きさは、443mm(高) x 560mm(幅) x 116mm(奥行)。

価格は、オープン価格。販売開始は、3月8日。初年度の販売目標は、1,000 台を目指す。

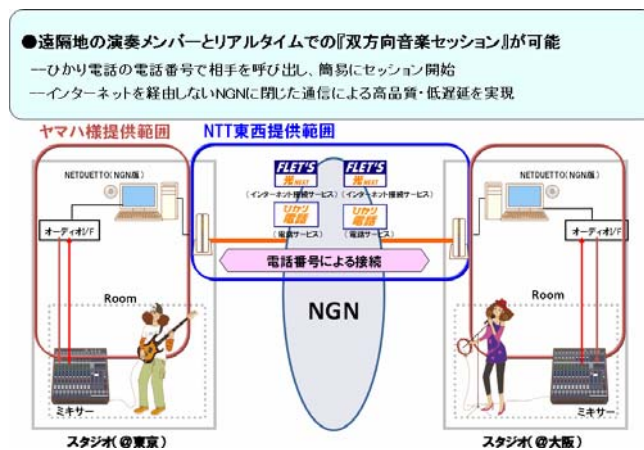
MeetingCanvas は、CustomerVision シリーズで提供するソリューションのひとつ。ユーザ支援である MeetingCanvas の他、「情報連携支援」、「アウトプット支援」、「Web 化支援」、「意思決定支援」、「プリンティング支援」、「安心・安全支援」の7つを提供している。

JB アドバンスド・テクノロジーは、JBCC ホールディング株式会社(東京都大田区)の事業会社(JB グループ)。

NTT 東西とヤマハ、遠隔地間をつなぐ演奏環境ソリューションを発表

東日本電信電話株式会社(東京都新宿区、NTT 東日本)、西日本電信電話株式会社(東京都新宿区、NTT 西日本)、ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、遠隔地間をつなぐ演奏環境ソリューションを発表した。(3月3日)

この演奏環境ソリューションでは、NTT 東日本、NTT 西日本の提供する次世代ネットワーク(NGN)の「フレッツ光ネクスト」および「ひかり電話」と、ヤマハが開発した「NETDUETTO(ネットデュエット)」を組み合わせ提供する。このソリューションに関するコンサルティングを3月4日より受け付ける。



演奏環境ソリューション (NTT 東西資料)

3社は、ネットワークを利用した新しい音楽スタイルの実現と利便性の向上を共に図ることを目的に協業の合意に至った。演奏環境ソリューションは、この協業による取り組みの第一弾となる。

演奏者同士の物理的な環境や距離などの問題があるが、手軽に遠隔地間をつないで演奏を行いたいという声は多いという。今回、そのような要望に応えるため、お互いに遠隔地であっても演奏が行えるソリューションを発表した。音の遅延がなく、快適に遠隔地間をつなぐ演奏環境を構築できるという。

3社はそれぞれのユーザ顧客に対する「NETDUETTO(NGN 版)」を活用したソリューション提案を行っていく。

また3月4日より、音楽リハーサルスタジオ事業者(株式会社ノア、株式会社ワイドウィンドウズ)のスタジオ内に、遠

隔地間をつないだ演奏やレコーディングを体感できるデモ環境を準備している。

利用シーンイメージ (NTT東西資料)

今後3社は、今



回の協業を契機に、お互いの強みを活かした、サービスの提供に取り組んでいく。たとえば、ライブや音楽イベントでの活用、ゲーム、カラオケ、クラウドサービスとの連携、ソーシャルネットワーキングサービスとの連携、ネットワーク機能開発、一体型ハードウェア開発、さらには、個人ユーザーだけでなく、高度な音響機能を含めたプロユーザーへの展開も視野に入れている。

製品・サービス動向-海外

ClearOne 社、オールインワンビデオソリューションを発表

米 ClearOne 社は、音声、ビデオ、データを統合したコラボレーションソリューション「Collaborate」を発表した。(2月28日)

Collaborate は、同社としては、初めてビデオの機能を搭載したプラグ&プレイ対応オールインワン製品。映像や

音声あるいはデータ(パソコンのファイルや Web ブラウザーなど)を共有しながらコミュニケーションが行える。クラウドコア CPU に Windows をプレインストールした PC をベースに、46 インチ HD LCD モニター、HD USB ビデオカメラ、サウンドバースピーカー、マイクポッド、ワイヤレスキーボード&マウスを提供している。

さらに、スプリットスクリーンモード(画面を分割する機能。)や、46 インチのモニターを2台並べて、1台をビデオ、もう一台をデータ表示(デュアルモニター的な使用)に使うということもできる。その際の表示はフル画面表示が可能。

加えて、VoIP ソフトフォン、インスタントメッセージング、あるいは、音声とビデオの再生(QuickTime、Real Player、Windows Media など)も可能。

Collaborate は、UC プラットフォームを導入している大企業から、Skype などを使用している中小企業まで幅広いユーザーに対応していると同社では説明する。

提供方法は、ウォールマウント、クレデンザ(credenza)、メディアスタンド。既存のディスプレイや PC を使用する(Collaborate のソフトウェアのみ)などカスタマイズも可能。

販売は、6月を予定。金額は、北米価格で、3,199ドルから17,999ドル。バルクライセンスあり。

シスコシステムズ、プレゼンスやIM、会議機能を提供する UC アプリケーションを発表

米シスコシステムズ社は、「Cisco Jabber(シスコジャバー)」を発表した。(3月1日)

Cisco Jabber は、PC や Mac、あるいはタブレット、スマートフォンでの利用を想定した、プレゼンス、インスタントメッセージング、音声、ビデオ、音声メッセージング、デスクトップ共有、会議機能をひとつのインターフェイスで提供する UC クライアントアプリケーション。Cisco Jabber は、インスタントメッセージングから音声、ビデオ、デスクトップ共有などを簡単に始めることができる。

(次ページへ続く)



う。

(写真上下)Jabber スクリーンショット (シスコシステムズ資料)



解像度は、HD に対応。加えて、多地点、多画面分割 (CP) も対応。2011 年後半にリリース予定。(4)「Cisco Unified Communications Manager 6.1.4 以降に対応している。(5) Cisco IP フォン、「Cisco WebEx MeetingCenter」、「Cisco TelePresence」との統合も可能。また、タブレットでは、「Cisco Cius」にも対応する。

今回発表の技術は、シスコシステムズ社が、2008 年に買

プレスリリースによると、Mac 版を今年夏にリリース、続いて Windows 7、iPhone、iPad、ノキア、Android、Blackberry などに対応していく予定とい

収した Jabber 社が開発した。

ビジネス動向-海外

Skype と Citrix Systems 社提携、Skype 社ビジネス向けサービス拡大

Skype 社と、米 Citrix Systems 社は、提携を発表。(3 月 1 日)

Skype 社は、Citrix Systems 社が提供する Web 会議、音声会議サービス「GoToMeeting」と組み合わせることで、ビジネス向けのサービスを拡大する。

これにより、Skype もしくは一般電話からのオンライン会議への参加が可能になり、Skype の音声コーデック「SILK audio codec」とスクリーンシェア機能に対応する。

今年の終わり頃に提供開始の予定。利用にあたっての料金については、サービス開始時に発表とのこと。

GoToMeeting サービスは、Citrix Systems 社のオンラインサービス部門が担当している。

Global Crossing 社、クラウド型音声会議サービスを発表

Global Crossing 社は、CaaS(Communications as a Service)クラウドベースで提供する音声会議サービスを発表した。(2 月 28 日)

この CaaS 音声会議サービスは、Global Crossing 社の IP バーチャルプライベートネットワーク (IP VPN)、SIP (Session Initiated Protocol) トランキング、「Global Crossing Ready Access ホステッド音声会議サービス」を組み合わせ、ユーザに対してカスタマイズが可能なサービスとして提供される。また、モバイルデバイスから音声会議に参加したり、あるいは、会議を開催したりすることもできる「Global Crossing Connect Mobile」も提供される。加えて、ユーザのカレンダー機能と同期させることも可能だ。

利用料は、シートベースの課金 (per seat pricing model、会議室同時利用者数ベース) でユーザは利用できるため、分単位の従量課金よりも、費用管理がしやすいというメリットがある

と同社では説明する。

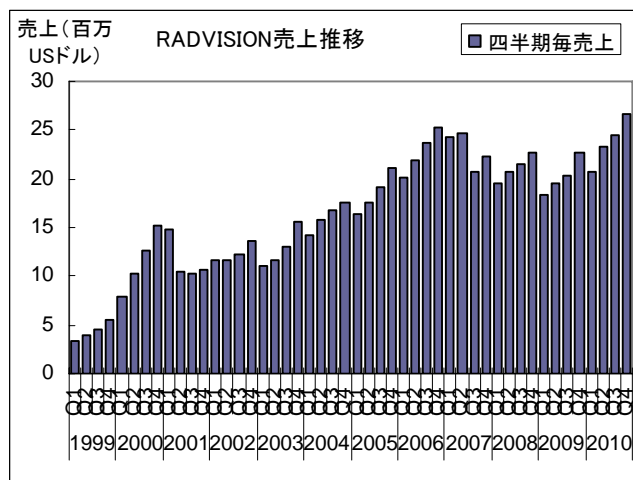
今後は、ビデオ、インスタントメッセージング、プレゼンス、メール、テレフォニーなどの機能を追加していく予定という。

業績発表-海外

2010年第4四半期(2010年10月-12月期)

*NASDAQ等上場企業のみ。

ラドビジョン社(イスラエル)



ラドビジョン社は、2月10日、2010年第4四半期の業績発表を行った。それによると、第4四半期の売上は、過去最高を記録し、2660万ドルを達成。また通年ベースでも、9520万ドルとなり、過去最高の売上となった。2009年の売上から17.6%増加したことになる。キャッシュフローは、約171万ドル増で、当期現金残高は、約1億1638万ドル。

同社は、VBU部門(インフラ製品や端末の販売)とTBU部門(SDKなど販売)の2つの事業部門からなるが、四半期売上ベースでは、VBU部門は、2260万ドル、一方、TBU部門は、400万ドルであった。

ラドビジョンは、今後2つの戦略的方向性を目指している。ひとつは、エンドツーエンドのソリューションプロバイダーと成長していくこと、またもうひとつは、従来のOEM供給も重視していた戦略から、ラドビジョン自社ブランド(非OEM販売)戦略への方向転換だ。既にその戦略の実行による結果が表れており、VBU部門の今四半期は、OEM販売の減

少にもかかわらず、前四半期から9%増、2009年第4四半期から23%増と、ラドビジョンブランドの売上げ増加している。

地域別売上では、南北アメリカが、全体の41%、EMEA(欧州、中東、アフリカ)が33%、アジア太平洋が、26%。

アジア太平洋地域の売上は、過去最高となり、VBU部門の製品の売上げ増によって、2009年第4四半期に比べ56%増、そして2011年第3四半期に比べ11%増という結果になった。

日本(RADVISION Japan株式会社)においては、金融保険関係などを含め大手企業の導入プロジェクトが多数進んでおり、その結果インフラ製品の売上が伸びているという。また、新たにサービスプロバイダーや販売パートナーとの提携も行われた。一方、中国では端末の販売、台湾ではインフラ製品、韓国では、政府系への導入などラドビジョン製品の市場における浸透が進んでいるようだ。また、オーストラリアでは、新たなパートナーとの提携などの動きがあった。

編集後記

今回もご覧いただきありがとうございました。

3月11日の地震・津波から3週間が経とうとしていますが、この衝撃的な経験は、一生忘れることはないと思います。

震災後の被災地や首都圏でのさまざまな混乱を見ると、現代社会は、近代化による物質的な豊かさや安全さをさも当たり前のように思ってきたと同時に、その裏腹として、自然の本当の力というもの完全に忘れていたような気がします。私たちが当たり前と思っていたものは、実は全く当たり前ではなく、もろく崩れやすいものであったということです。

人間が長い年月をかけて誇りをもって築き上げてきた有形無形のさまざまなものをあつという間に破壊し尽くす自然の力に、人間は自然に生かされている生き物であるとひしひしと感じます。どんなに背伸びをしても自然には勝てないでしょう。それが人間に与えられた宿命だと思います。自然から生まれできた生き物ですから。

しかし、どんな状況にいても、人間として生かされている以上、あごを上げ、前をしっかりと向いて、日々やれることを少しずつでもやっていく。そして、それを積み重ねていく。それしかないと思います。しかしそうすると、そこから生きる力が体の中から湧いてくる、そして、人間にとって何が価値あるもので、また人間は何をすればいいのか見えてくると私は思います。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介